

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500361		
法人名	医療法人 仁生会		
事業所名	ひだかの里		
所在地	高岡郡日高村下分3561-1		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年3月14日に、「あたかホームかも」を「あつたかホームひだか」に統合し、従来の2階建建物を「とんぼユニット」、隣接の平屋改修建物を「めだかユニット」とし、2ユニットのグループホームとして名称も「ひだかの里」と改め、運営している。中でも「めだかユニット」の利用者は比較的介護度が高く、以前の建物と比べバリアフリーに配慮し、自立した生活が送れるよう改善している。ホームでは広々とした景色の中で、これまで同様に地域の行事に参加したり、神祭等に出かけるとともに、日常的な散歩や買物などを通して地域との関係を築いている。また、母体法人の協力医療期間との連携を図りながら、入居者、家族との信頼関係を築き、職員一丸となって健康的に生活を送ってもらうように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=3972500361&SCD=320&PGD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月、村内の法人系列の2つのグループホームを1箇所に統合し、建物構造の違いから2階建てと平屋建ての2ユニットの事業所として運営している。周辺は民家が少ないが村道沿いに宅地化も進んでおり、通学児童や散歩途中の保育園児や住民が気軽に立ち寄ってくれたり、地域の文化祭や運動会などの行事への参加や地元農産物直販所などで買物をしたり、利用者の希望で統合前の地域での百歳体操に参加するなど、日常的に地域に溶け込み、これまで築いてきた地域との関係が継続できるように支援している。施設長、管理者をはじめ職員は、利用者への敬愛の念を忘れず、家族的な事業所づくりに取り組むとともに、家族との支え合いの関係を築いている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: めだか・とんぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族との連携を大切に支援していく理念のもと、地域との協力関係や家族との支え合いの関係を築くとともに、日頃から入居者を人生の先輩として敬う気持ちを大切にすることを話し合っている。	昨年3月、2事業所統合後も、引き続き、利用者と職員が家族同様に暮らしていく事業所を目指す理念を掲げている。職員会や申し送り、ケア会議などの機会を通して理念を振り返りながら、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の神祭や文化祭や福祉ふれ愛運動会など地域の行事には積極的に参加したり、百歳体操や散歩時に地域の方々との挨拶も欠かさず、地域の一員として交流している。	地域の文化祭や運動会に参加したり、事業所の忘年会には家族のほか多くの住民の参加を得て交流している。通学途中の児童や散歩時の保育園児との触れ合いのほか、地域住民が散歩時に気軽に立ち寄り、野菜の差し入れがあるなど、地域に馴染んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、ホームの行事や防災訓練に地域の方々の参加を得て入居者と交流する中で、認知症や日常生活動作について理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況やホームのサービスなどの取り組み、評価結果などについて話し合いを行っている。出された意見等はサービスに活かしていくようにしている。	会議には利用者全員が参加し、発言機会を設けている。複数の地域の代表者に委員を依頼しているが、仕事の都合等で参加が少ない傾向にある。また、会議は、事業所や参加委員の報告中心の運営になっており、事業所としても課題意識を持っている。	議事録は個人情報保護の観点から、利用者名は匿名にするとともに、毎回、議題にテーマを設けたり、議題に応じて地域の関係者に参加してもらうなどの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村の担当課や地域包括支援センターとは日常的に相談や報告などを通して協力関係を築いている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の参加があり、事業所の実情を伝えたり、個別ケアなどの相談をしている。また、担当課への報告や相談も行って、村の関係部署との調整などの協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をせず、自由に過ごしてもらっている。また、身体拘束をしないケアについて、研修会や学習会で職員に周知を図り、取り組んでいる。	身体拘束に関する法人内研修会に参加し、職員の認識を深めるとともに、特に、日々のケアの中での言葉遣いについて、職員同士で互いに注意し合っている。日中は玄関には施錠せず、リスクについても家族に説明している。外出傾向のある利用者には制止することなく、職員が後から同行するなど、見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修会や内部の勉強会で学習するとともに、職員同士で身体状況等を観察しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し、理解している。また、司法書士の話や機会もあり、必要に応じて支援していくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にサービス内容等について細かく説明するとともに、理解と納得を得るように質問や疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、入居者の思いや意見を表してもらうとともに、家族会を代表して会長から意見を述べてもらい、苦情相談員や行政担当職員と意見交換をしている。また、家族とは面会時や電話などで情報交換や意向等を聞くようにしており、出された意見等は検討しながらできることから運営に反映させている。	行事等の企画に当たっては利用者の意向を尊重している。家族の面会も多く、会話を交わすとともに、村外在住の家族には電話するなどして、意見や要望を聞いている。家族会では家族のみで話し合う機会を設けている。事業所への入口が分かり難いなどの意見を受けて、村の担当課に相談して村道沿いにポールを設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニカンファレンスなどの機会を捉えて、職員の意見や提案を聞いている。外出支援や行事の計画に当たっては職員全員で話し合いながら検討している。また、ノロウィルス対策としての業務分担の在り方などについて話し合っている。	職員会や日頃のミーティングなどの機会に、職員の意見や提案を出してもらうようにしている。フロアでの上履き使用や、勤務ローテーションと業務分担などの意見を受けて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、職員の努力や実績などを評価し、給与やボーナスに反映させている。また、建物構造に伴う健康保持対策など、働きやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加する機会を設け、職員の力量を伸ばすなど、スキルの向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内や法人系列のグループホームとの交流を深め、お互いの良いところを取り入れていくようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人に面談し、意向を傾聴したり、不安などを解消してもらうように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に家族の要望や困っていることなどを傾聴し、ホームの方針などを説明し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対してどのような支援ができるのか話し合い、より良い対応や方法を見い出すよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の思いを尊重し、寄り添うとともに、生活の知恵などを習いながら共に暮らす仲間同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の機会も多く、要望や意見を聞きながら本人を交えて話し合い、支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の文化祭や納涼祭などに参加した際や、買物時に、顔見知りの方と会話を交わすなど、これまでの関係が続けられるように支援している。また、ホーム統合前の地域で開催される百歳体操に参加するなどの機会も設けている。	知人、友人の面会を受けたり、買物時に知り合いと交流している。希望に応じて馴染みのある地域の百歳体操に参加したり、行きつけの理美容院を利用している。また、ドライブがてら出身地に立ち寄り、知人と交流したり、家族の協力を得て法事に参加するなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間人間関係を把握し、毎日職員が間に入り、共通の話題を提供したり、回想方などを用いて一人ひとりの発言を促すなどして、入居者同士の関わり合いにつなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居した場合も、本人の励みになるよう時々見舞に行くとともに、家族との関係も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの馴染みの関係や好きなことを念頭に置きながら、日常の関わりの中で、思いや希望を汲み取るようにしている。	利用者毎のアセスメント情報を基に、日頃の会話や行動の様子などから、思いや希望を把握している。困難な場合は、表情や仕草などから思いを推察したり、家族から情報を得ながら利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族から生活歴や馴染みの関係などについて、聞き取りをするとともに、サービス提供関係者からも情報を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身の状態や、できること、得意なことなど、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望等を伺い、朝のミーティングやケア会議で話し合い、入居者の現状に則してよりよい暮らしができるようにケア計画に取り入れている。	面会時や電話などで家族の意向を聞いている。毎月、担当職員がモニタリングを行うとともに、3カ月を基本とする介護計画期間に合わせて、計画作成担当職員を中心にカンファレンスを行い、可能な限り利用者も参加している。また、利用者の状況に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援内容等の記録や連絡ノートにより職員間で共有し、ケアの実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて生活リハビリテーションの中に歩行訓練を取り入れたり、食事摂取量の確保のために好みの食物や食事形態を工夫するほか、家族の都合に応じて職員が通院支援を行うなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる百歳体操や文化祭、福祉ふれ愛運動会などの行事に参加したり、小学生や保育園児との触れ合い、野菜などの直販所などで馴染みの方と交流するなど、入居者個々の残存能力を活かしながら、豊かな暮らしが送られるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるよう、協力医と連携しながら支援している。従来からのかかりつけ医等への受診は家族対応としており、必要に応じて情報提供書等を交付している。協力医への受診は職員が同行している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診できるようにしている。協力医での受診は職員が同行し、それ以外は家族対応を基本とし、受診に際して事業所から情報を提供している。受診結果は主治医から報告を受け、職員間は申し送りノート等で共有するとともに、家族には必要に応じて連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に健康状態や症状等を常に観察し、気づきや情報は毎朝の申し送り時に話し合い、施設長や協力病院等に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いに行くとともに、病院の医療相談室との情報交換を行い、早期退院に向けての相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対応について、ホームですることができること、できないことを説明し、家族の協力要請等もしている。また、ホームでは入居者の状態等に応じて、医療連携のほか、できるだけ限りの支援をしていくようにしている。	入居時に重度化や看取りに関する対応について利用者、家族に説明している。その時点での家族等の意向は医療機関での対応を希望している。入院退居の場合であっても、見舞いは欠かさず、終末期を迎えた際も、事業所として対応し得る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について随時職員間で話し合うとともに、施設長や管理者との連絡体制等の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの火災訓練時には近所の方の参加を得て実施し、職員は訓練を通して地域の方と連携した対応などを確認している。また、ホームは地域の避難所としての指定も受けており、村と協議して非常食などの準備もしている。	年に2回、消防署の指導を得て事業所独自の防災訓練を実施している。休日に実施するなど工夫しながら地域住民の参加を得て、建物内の状況なども伝えている。非常時の飲食物品の準備もしている。また、事業所は、村から要援護者の避難場所としての指定を受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に留意しながら、常に温かみのある気持ちを忘れず声かけするようにしている。	ケアの中で言葉遣いについて職員同士で注意し合うなど、利用者の人格や誇りを大切にしている。また、夜間のみポータブルトイレを使用する場合は、日中はカバーをかけるなど、プライバシーの確保に気配りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、入居者一人ひとりが自分の思いを伝えることができ、自己決定ができる場面づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを大切に、身体状況や希望に沿って、その日をゆったり過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣類を身につけるなど、身だしなみやおしゃれができるように支援している。また、行きつけの理美容院に行ったり、訪問美容を受けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食べ物や飲み物を聞きながら献立やおやつなどを考え、入居者のできる範囲で食材の下ごしらえや食後の盆拭きなどを担ってもらうようにしている。	利用者の希望を聞きながらユニット単位で献立を作っている。利用者の希望に沿って買い出しに同行してもらったり、食事の準備や片づけなど利用者のできることを職員と一緒にしている。また、料理方法を利用者から習ったり、職員も同じテーブルにつき会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定をして、施設長に相談しながら水分補給や栄養のバランスなどを話し合い、一人ひとりの応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアの声かけや洗面所に誘導しながら支援している。また、歯の状態に応じて歯科受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう支援している。尿意の無い方には時間をみながら誘導している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の自立度に応じて誘導や声かけなどしながらトイレでの排泄支援をしている。入居後の支援で失敗が少なくなったり、個々に応じてポータブルトイレを用意するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立にできるだけ野菜を多く取り入れるなど、繊維物の摂取や乳飲料を提供し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本としているが、行事や拒否がある場合は、見合わせ、柔軟に支援している。	午後の時間帯に入浴支援をしており、毎日入浴している利用者もいる。強い入浴拒否の事例はなく、気分や体調等に応じて日を替えることもあるが、概ね2日に1回は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時や午睡をしたい時には随時休息してもらうとともに、シーツや枕カバー、パジャマなどは常に清潔にし、気持ちの良い眠りが確保できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きを見やすくカルテに綴じ、薬の飲みこぼしが無いよう、確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や嗜好品、趣味や得意なことなどを把握し、力に応じてできることの役割を担ってもらったり、楽しみにつながる場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や体調に応じて散歩や買物に出かけるとともに、地域の百歳体操やその他の行事にもできるだけ参加するように支援している。また、法人のバスを利用した遠出や随時のドライブなどで気分転換につなげる支援にも取り組んでいる。	日常的に事業所周辺を散歩しており、車椅子の利用者も同様に散歩したり、玄関先で外気浴をしている。また、利用者の希望に沿って買物に行ったりドライブをするほか、季節に応じて外食を兼ねた花見や行楽などもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族と相談しながら少額の小遣いを自分で管理したり、ホームで預かっている場合も希望に応じて手渡し、支払ってもらうよう見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に沿って電話ができるように配慮している。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物構造に応じて室温などの空調管理に配慮するとともに、厨房や職員の事務スペースとも一体的になっており、生活感のある共用空間で、入居者に我が家として落ち着いて思い思いに過ごせる環境となるよう工夫している。	ユニット毎にリビング兼食堂の間取りは異なるが、床には電気マットなどを敷くなど、季節柄温かく過ごせるよう工夫している。また、畳の間や廊下のソファなどで思い思いに過ごしたり、行事写真を貼ったり、生け花などで落ち着きのある雰囲気づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食卓や畳の間、廊下のソファや自室にもソファを置くなど、気の合う入居者同士で過ごしたり、独りでくつろくことができるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、本人にとって馴染みの物や思い出の品物を持参してもらうよう依頼している。入居者それぞれの持ち物を置きながら、落ち着きがあり居心地の良く過ごせるよう工夫をしている。	整理ダンスや衣装ケース、テレビやぬいぐるみ、家族写真やカレンダーのほか身の回りの小物類などをそれぞれ持ち込み、利用者の暮らしが窺える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と自立に配慮し、トイレや浴室などに手摺を設置し、転倒予防として家族に相談しながらセンサーマットを使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない